

## 有事に備えるために —私たち女性部の新たな挑戦—

宮城県漁業協同組合石巻湾支所女性部  
丹野 恵子

### 1. 地域の概要

私たちの住む宮城県石巻市は、宮城県第2の水産都市として知られ、牡鹿半島周辺を含む石巻湾では、ノリ、カキ等の養殖が盛んに行われている。

また、仙台湾の沖合では、親潮と黒潮が交わる三陸沖の漁場が形成され、刺し網や定置網、底びき網など、漁船漁業も盛んである。

さらに、特定第3種漁港である石巻漁港の背後地には水産加工団地が形成され、三陸沖等で漁獲された魚介類を活用した水産加工業が盛んに行われている（図1）。

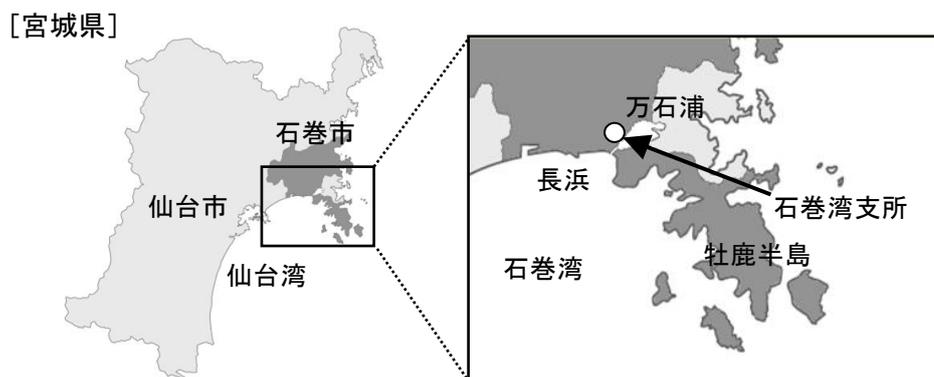


図1 宮城県漁業協同組合 石巻湾支所の位置

### 2. 漁業の概要

宮城県漁業協同組合石巻湾支所は、石巻湾の湾奥部に位置し、旧北上川の河口域では、ノリ、カキ養殖が営まれ、万石浦（まごくうら）では、種ガキの育苗やカキの仮殖、アサリ養殖が行われている。

組合員数は、正組合員 74 人、准組合員 35 人、計 109 人となっており、組合員の多くが、ノリ、カキ養殖業を営んでいる。

平成 30 年度の販売取扱高は、ノリが 6 億 5,000 万円、カキが 4 億 2,000 万円、種ガキが 1,400 万円、アサリが 1,000 万円で、ノリとカキの水揚げ金額が 9 割以上を占めている（図2）。

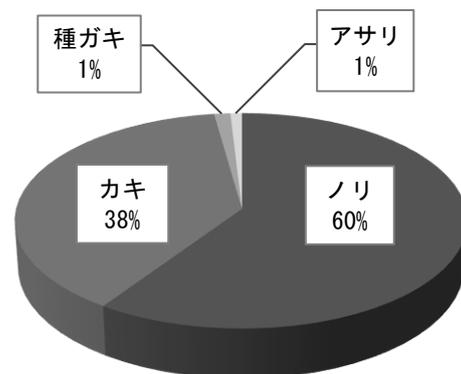


図2 平成30年度宮城県漁業協同組合 石巻湾支所 販売取扱高

### 3. 研究グループの組織と運営

宮城県漁業協同組合石巻湾支所女性部は、昭和49年に発足し、現在は部長1人、副部長2人、会計1人、監事2人、部員25人の、計31人で構成されている（図3）。

女性部の運営は、会費や、天然石けんわかしお等の斡旋販売手数料、支所からの助成金で成り立っている。

女性部が発足してから、定期的な浜掃除や、アサリの天敵であるサキグロタマツメタの駆除（写真1）、部員の親睦と自己研鑽を目的とした研修会の開催、ノリ、カキを使用した料理実習等（写真2）、活発な女性部活動を行ってきた。

浜掃除については、平成8年から取り組んできた長年の活動が評価され、平成22年には社団法人全国海岸協会より、海岸功労者表彰を受賞することができた（写真3）。

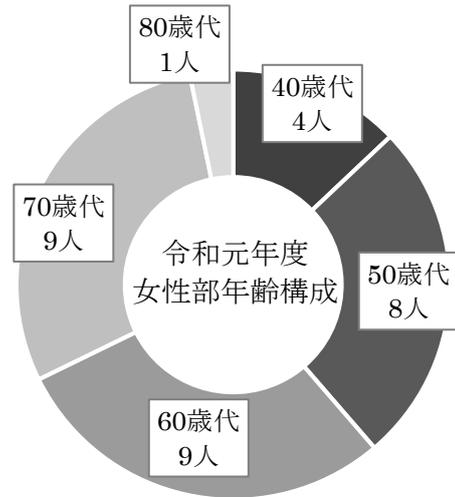


図3 令和元年度宮城県漁業協同組合石巻湾支所女性部年齢構成



写真1 サキグロタマツメタ  
駆除活動



写真2 ノリ、カキ料理教室



写真3 海岸功労者表彰式

### 4. 研究・実践活動課題選定の動機

平成23年に発生した東日本大震災により、私たちの地域も甚大な被害を受けた。津波によって大切な漁場はガレキで覆われ、家屋を失い、仮設住宅での生活を余儀なくされるなど、これまでの生活を奪われ先の見えない状況が続いた。

震災以前の漁業活動や生活を取り戻すため、男女関係なく、組合員が一丸となってガレキ撤去に取り組んだ（写真4）。震災当初は、漁業による収入が得られない状況であったが、ガレキ撤去に取り組むことで得られた日当と、多方面から頂いた支援のおかげでなんとか乗り越えることができた。



写真4 ガレキ撤去作業

比較的早期に再開できたカキ養殖を契機に、

ノリ養殖も徐々に復旧することができ、生活にも少しずつ落ち着きが戻りつつあったことから、女性部員全員で話し合い、平成 25 年から女性部活動を再開した。

震災を経験した私たちは、有事の際に自分や家族を守るため、日頃から備えておくことの重要性を痛感し、女性としてできることを模索していたところ、石巻湾支所の職員より「JF みやぎ女性部定期貯金」を紹介された。

女性を対象とした定期貯金は、私たちにとって初めてのことであった。これまで、通帳は夫名義のものが一つである家庭が多く、女性が自分名義の通帳を持っていることの方が少なかった。女性部員が「JF みやぎ女性部定期貯金」に取り組むことで、自分名義の通帳を持ち、自分の意思で貯金を申し込むことは、私たち女性が自信を持つきっかけになると考えた。また、「有事のための備えが女性個人でできる」ことに加え、「助成金という形で女性部活動の支援を受けることができる」「支所全体の貯金額が増加し支所の運営にも寄与できる」など、女性部活動の支援や支所の運営の一助にもなることから、女性部の活動として貯蓄推進に取り組むことにした。

#### 5. 研究・実践活動状況及び成果（または効果）

貯蓄推進活動は、まず、女性部総会や部員が一堂に会する機会に、宮城県漁業協同組合信用共済部の担当者を講師に迎え、貯蓄推進に係る勉強会を開催した（写真 5）。さらに、一人でも多くの理解と協力を得られるよう、支所職員の協力を得て、勉強会に参加できなかった女性部員などに、JF みやぎ女性部定期貯金への加入を呼びかけた。

勉強会の開催や加入の呼びかけは、地道な活動ではあったが、支所職員の協力もあり、女性部員に「有事へ備えるための貯蓄」、「いざという時、自分や家族を守るための貯蓄」が浸透していった。

また、宮城県漁協女性部連絡協議会及び貯蓄推進宮城県協議会が貯蓄推進キャンペーン開始に伴って発行した「宮城県漁協女性部貯蓄推進運動ご紹介カード」を活用したことで（写真 6）、家族や部員以外の人たちにも気軽に貯蓄の推進を呼びかけることができた。はじめは、あまり良い反応ではなかったが、徐々に理解を得ることができ、女性部員から家族や周囲の人たちにも貯蓄の動きが広がっていった。女性部の活動として始めた貯蓄推進活動は、勉強会の開催や呼びかけ、家族や周囲の人たちとの話し合いを通じ、支所として貯蓄推進に取り組んだことで、取り組み始めた平成 25 年から平成 29 年の 4 年間で、宮城県漁業協同組合石巻湾支所全体の定期貯金額は 12.3%も増加した（図 4）。こうした貯蓄推進の活動が評価され、私たち女性部は、平成 29 年 5 月に宮城県漁業協同組合より貯蓄推進キャンペーン普及推進賞を受賞した。さらに、平成 30 年 7 月には第 16



写真 5 貯蓄推進勉強会



写真 6 宮城県漁協女性部  
貯蓄推進運動  
ご紹介カード

回 J F マリンバンク 全国大会において、農林中央金庫・全国漁業協同組合連合会より、地域推進功労者賞を受賞することができた（写真7）。

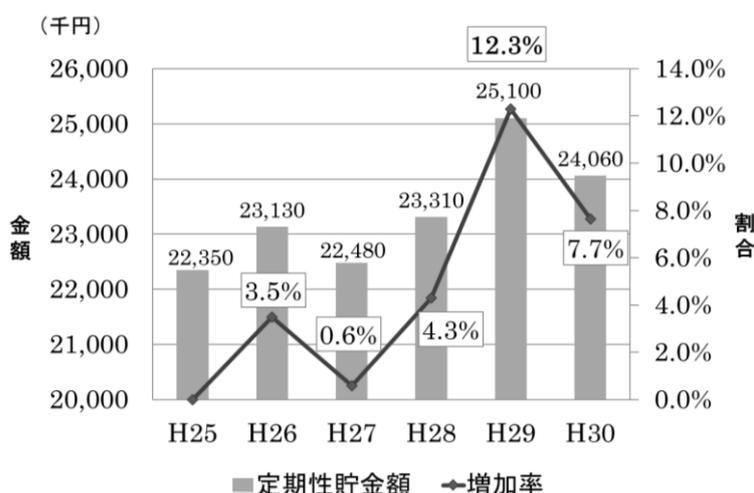


図4 宮城県漁業協同組合石巻湾支所全体の定期貯金の金額増率

## 6. 波及効果

女性部として貯蓄推進活動に取り組んだ結果、支所全体の定期貯金額が増加し、支所の運営にも寄与することができた。さらに、宮城県漁業協同組合より助成金という形で女性部活動を支援していただいたことから、「私たち女性にもできる」という自信が湧き、積極的に活動することができるようになった。

平成28年度には、岸壁や、周辺の作業場などの復旧が完了、重機の使用が終了したことで、漁港周辺が安全な状態になったことから浜掃除を再開した。カキ処理場や、カキ処理場に続く万石橋、長浜海水浴場、渡波漁港周辺の環境美化のため、女性部を中心に、支所の組合員全員で清掃作業に取り組んだ（写真8）。

また、平成29年度には、石巻湾支所、石巻地区支所、石巻市東部支所が協力し、3支所で生産されているカキについて、養殖版海のエコラベルとも呼ばれているASC認証を取得した（写真9）。ASC認証は世界的な認証であり、漁場環境から漁業者の労働環境に至るまで、配慮して生産されていることを承認するもので、私たち女性部としても認証を取得した3支所のカキだけでなく、石巻産のカキの認知度向上と、さらなる消費拡大につながるようPR活動を実施した。

令和元年度には、7月に貯蓄推進に係る勉強会を開催したほか（写真10）、9月には



写真7 第16回JFマリンバンク全国大会



写真8 震災後の浜掃除



写真9 ASC認証取得 石巻産かきのポスター

長浜海水浴場、渡波漁港周辺の浜掃除の実施（写真 11）、海上保安庁による海上作業安全研修へ参加する等（写真 12）、女性部の活動の幅が広がった。

その他にも、ライフジャケット着用推進運動など、東日本大震災により休止を余儀なくされた活動を再開させたことに加え、自分たちで青色申告をすることを目指したパソコン研修など、新たな取り組みにも挑戦した。



写真 10 令和元年貯蓄推進に係る勉強会



写真 11 浜掃除



写真 12 海上作業安全研修

## 7. 今後の課題や計画と問題点

今後、私たち女性部の活動を震災以前より活発なものにするためには、「限りある資源の有効活用」と「部員の若返り」が課題となっている。

温暖化が進み海洋環境が刻一刻と変化していく中で、限りある資源を有効活用するため私たち女性部は、低未利用資源の活用や付加価値の向上を目的に、加工品の製造や販売を目標とした6次産業化の検討も進めたいと考えている。

また、宮城県漁業協同組合石巻湾支所女性部の部員は、31人中40歳代から50歳代の部員が12人となっており、比較的若い部員が所属している。しかし、6次産業化等の新たな挑戦をしていく上で、これからの時代を牽引していくためには若い世代の意見を取り入れていく必要がある。今後は、若い女性部員の加入を促進するため、女性部加入の呼びかけに、さらに力を入れていきたいと思う。

万石浦は昔からさまざまな生き物を育み、人々の生活を支えてきた大切な海である。このすばらしい海を次の世代へつないでいけるように、組合員、青年研究会、女性部、そして、地域の人たちと協力し、これからも挑戦を続けていきたい。